

# いばこみ

茨城地区会コミュニケーション

平成 23 年 11 月発行 第 11 号

国臨協関信支部茨城地区会

発行責任者 青木 貞男 (茨城東)

編 集 此崎 寿美 (茨城東)

根本 浩 (水 戸)

## 茨城東病院



### 【施設紹介】

当院は、水戸市北方 15 k m の地点にあり、北に日立市、南にひたちなか市の工業都市及び国営ひたち海浜公園を有する 428 床 (重心 120 床、結核 68 床、その他 240 床) の病院です。当院の特色は、茨城県下の呼吸器疾患に関する中心的施設として、関係医療機関と連携して、高度で専門的な医療及び情報を提供しています。特に、睡眠時無呼吸症候群の検査 (22 年度実績 502 件) 及び心肺ドックを精力的に行っています。また、重心障害児 (者) 及びエイズに関する政策医療としての分野も担っています。さらに現在は地域医療支援病院として地域の開業医と連携を取り、地域住民の診療に当たると共に結核の最終受入機関としての

当院の存在はますます重要になってきています。

当検査科はこのような特色のある病院業務を技師 8 名と技能職 1 名の少数精鋭で行っています。23 年 2 月及び 4 月の人事異動によりメンバーの入替があり、新たに加わった優秀な新人 2 人を含めて新たな検査科の構築に日々努力しております。

文責 青木 貞男

## 新人紹介

青木 貞男



4 月の人事異動で沼田病院から茨城東病院へ配置換えになりました青木です。

今年度の地区会会長を仰せ付かっています。皆様と一緒に地区会を盛り上げていきたいと思っていますのでご協力よろしくお

願いたします。

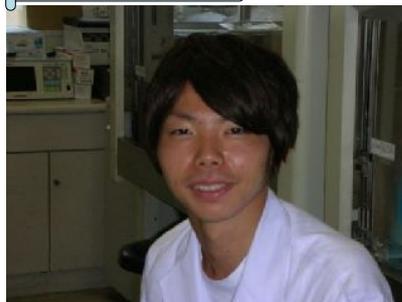
人事は予想外のことが多いのですが、茨城地区会の会員になられた方の中にもそう思われている方もいると思います。複雑な気持ちがあったと思いますが、この地に使命があると自覚し心新たに各施設の人材として頑張らしましょう。桜は桜、梅は梅、桃は桃、李は李です。桜が梅になろうとしてもなれないし、梅が桜になろうとしてもなれない。梅には桜の様な華やかさはありませんが、梅には梅の良さがあります。それぞれの個性の良さを伸ばし自分らしく「世界に1つだけの花」を咲かせていきましょう。

自己紹介を軽いタッチで書かせてもらいます。転勤後6ヶ月が過ぎDNAが目覚めて訛ってきています。生まれはなんと茨城です。真壁町という田舎ですが、今ではひな祭りが有名だそうです。高校を卒業してから茨城に住むのは初めてだったので最近まで知りませんでした。はじめての職場は甲府病院でその後、立川病院、災害医療センター、2度目の甲府病院。これが初の遠距離通勤でした。帰れるかと思ったら犀潟病院へ単身赴任。東京（東京病院）に戻って3年半。まさかの沼田病院臨床検査技師長。2度目の遠距離通勤は厳しかった。時間との戦いで電車の中で資料を読みながら夢心地。もう遠距離通勤はしないぞと。今では、時間を気にすることなく検査業務ができ幸せと思える境涯？になったと思っています。

趣味は、年齢とともに変わってきています。年が若い頃は、バイクにテニスにスキーとやりたい放題していました。こよなく愛したバイク（Z2）は42歳まで乗っていましたが、諸般の事情により手放しました。今は年齢に合ったトレッキング（頂上を目指さない）とカレイなテニスを趣味としています。今年の夏には高校以来初となる白

馬(しろうま)岳と八方へ行ってきました。テニスは、沼田病院に遠距離通勤の頃から体力維持のためスクールに通って基礎を習っています。中上級を目指し汗を流していますが上達したのは口ばかりです。元・山ガールさん、機会がありましたらテニス好きな山おじさんを誘ってください。

小林 昌弘



始めまして、小林昌弘と言います。去年の3月に検査学校を卒業し、1年間埼玉病院の非常勤職員として働き、今年の2月1日付で茨城東病院に正職員として採用となりました。

出身は長野県飯山市という場所で、雪が多く降る場所だったので、学生時代はスキー部に所属していました。ただ、クロスカントリースキー部だったので、スキーと言われてすぐに想像する坂を滑り下りるアルペンスキーはあまり得意ではなく、八の字でしか滑ることができません。

趣味は、ランニングで休日になるとたまにですが走っています。東海村は自然が多くてランニングには最適な場所です。いつか勝田マラソンに出場しようと密かに考えているところです。

高校を卒業すると埼玉の検査学校に通っていました。茨城県は私が住む3箇所目の県です。

新生活を始めて約1ヶ月後、東日本大震災が発生し、波乱の茨城県デビューとなりましたが、右も左も分からない私が、そのような状況においても無事にやってこれた

のは、多くの方の助けがあったからであり、この経験から、私も多くの方の力になれるよう努力していこうと改めて決心することができました。

まだまだ知識、経験共に浅く未熟ですが日々努力することにより、一步一步成長していきたいと思っています。

## 磯部 祥子



今年の4月1日付で茨城東病院に採用となりました磯部祥子と申します。

出身は静岡県袋井市で、クラウンメロンが有名です。クラウンメロンマラソンという市民マラソン大会があり、参加賞がメロン食べ放題です。高校時代は陸上部に所属していたので、部員全員で参加しました。ただ、気温が低くてすごく寒かったので、たくさん食べることができず悔しかったのを覚えています。大学生になってからは交響楽団に入ったので全然運動していません。病院では生理機能を担当しているので、大声を出したり、患者さんと一緒に思い切り吐いたり吸ったりすることで、少し運動した気になっています。

好きなものはたんぱく質（肉）・糖質（スイーツ全般）・麦（ビール）です。食べ物の好みは肉食系ですが、性格はかなりの小心者です。

今年は震災のために就職できる状況なのか不安でしたが、無事に4月から働くことができました。震災の日は当時住んでいた神奈川で地震を経験しました。この日は卒業旅行で行ったサイパンから帰ってきた日

で、少し浮かれ気分だったのですが、地震のニュースを見て一気に気分が落ち込んで不安でいっぱいになったのを覚えています。翌日に住居探しをする予定でしたが最初は交通機関が回復しなかったため住居探しができませんでした。引越し業者にも引っ越し先を茨城と告げると断られてしまう状況でした。3月末にやっと引っ越しができて、病院に挨拶に伺いました。その時に病院の技師から震災の体験談を聞かせて頂き、自分の不安なんて本当にちっぽけだったと感じ、茨城で気持ちを新たにならなうと思えました。

半年近くたった今では病院にも徐々に慣れてきて、茨城弁も聞き取れるようになってきました。教科書で得た知識を臨床の場で使えなくては意味がないと強く実感し、臨床の生理や病態を把握することの重要性を感じています。

どうぞこれからよろしくお願ひします。



## 東海村の「干しいも」

## 霞ヶ浦医療センター



### 【施設紹介】

当院は5個病棟250床の中規模病院です。標榜診療科は内科、呼吸器内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、形成外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科、口腔外科、心臓血管外科、麻酔科の18診療科です。特殊専門外来として、高血圧、胆道系（胆のう、肝臓、膵臓）血液、各種臓器の悪性腫瘍、不妊、特殊産科、更年期障害、アレルギー、ストーマ外来、小児循環器、女性専門外来、子宮腺筋症外来、家族性腫瘍外来、セカンドオピニオン外来を開設しています。診療科の特徴として、内科領域では消化器、呼吸器、循環器疾患、を重点的に扱っています。また、外科領域では内視鏡手術症例が多く、県内有数の症例数を誇っています。乳がんや子宮がん、子宮内膜症や子宮腺筋症など女性特有の疾患が多いことも当院の特徴です。

研究検査科は検体検査・生理検査・病理検査・外来受付（採血）の4業務で構成しています。深夜・休診日に発生する緊急検査はオンコール体制で対応しています。現在、9名のスタッフで日々健闘しています。今後の課題は検査機器の老朽化が目立つため毎年、機器購入に向け頑張っていきたいと思っています。

文責 海原 桂一

## 新人紹介

海原 桂一



茨城地区会の皆様方初めまして！！

この度4月1日付けで下志津病院（千葉地区会）より異動してきました霞ヶ浦医療センターの海原 桂一（かいはら けいいち）です。

どうぞ宜しくお願い致します。

生まれは北海道です。（札幌と旭川の間ですが・・・）

最近温暖化の影響でパウダースノーから湿った雪も目立つようになったと聞きます。東京・千葉・神奈川・新潟を転々として茨城県は初めてになります。

津田沼から土浦まで片道約2時間の通勤時間を要し、読書より眠りに入っている時間が多く、最近2回乗り越しました。（だんだん通勤に慣れつつあります）

今までどちらかといえば、検体検査部門に多く携わってきました。

趣味は主にテニスとスキーですが、最近体力の低下と肥満傾向？により動きが緩慢になりましたが、まだまだ動けません・・・・・・・・・・・・・・・・。

スキーは最近ほとんど滑っていませんが新潟病院の頃、中島技師長（水戸医療センター）と一緒に遊んでいただきました。

思ったほど上達していませんが、テニスはいつのまにか20年近く続けています。数年前には新潟県中越沖地震に遭遇し大きな地

震は今回で2度目になり水や電気、ガス(ライフライン)がどれだけ大事で貴重なのか思い知らされました。忘れた頃にまだ余震があり、津波や放射能汚染により戦後最大の国難に陥っていますが、この難局を皆様と乗り越えていきたいと思ひます。一生懸命頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。

### 阿部 浩

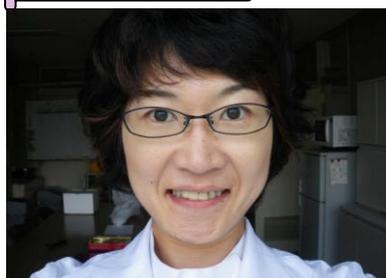


みなさんこんにちは。

霞ヶ浦医療センターの阿部と申します。今年の4月より、国立がん研究センター中央病院より移り、お世話になっております。前施設では、もっぱら生化学の検査に携わっておりましたが、こちらの施設では血液一般と輸血検査の担当をしております。血液一般検査は十数年ぶりに担当することとなり(ほとんど学生実習以来です)、教科書や文献をひっくり返して業務を行っている毎日です。当院では婦人科に力を入れておりAIH(人工授精)関連の検査を行っているのですが、はじめて精液検査に携わり四苦八苦をしておりました。その時助けになったのが、技師会の会報誌でした。私はどちらかと言うと、物を捨てられない(物持ちがいい?)ようで、本を漁っていたところ自分の部屋でそれを見つけました。本屋に何回か通い探していたのですが、思うような雑誌は見つからなかった時にそれを発見しました。それからは、その会誌を見ながら検査を進めることが出来、曖昧な判定

をせず結果を返せる事が出来ました。生化学の経験が長かったせいか、「エビデンス」「標準化」「勧告法」と言ったガイドラインが手に入りやすく、メーカーなどに聞いても知ることが出来た分野でしたので「畑が違ふと、こうも違ふのか」と痛感した一幕でした。また、会報誌なども捨てずに積んでおいたおかげで助けられ、雑誌をとっておくこともばかにならない事だなど、改めて思ひ知ったことも確かでした。私は40代後半ですが、20数年の経験があつても、初めて携わる検査や科学の進歩から生み出される新しい検査などがあり、この仕事も気が抜けないことを思ひ知らされました。これからは後輩技師の方にも、常に広い視野と深い探求心を持ってもらえるように一緒に検査に取り組んでいきたいと思ひます。まだまだ未熟な面がありますが、よろしくお願ひいたします。

### 草薙 真里



四月より霞ヶ浦医療センターに配属されました草薙真里です。以前は国立がんセンター東病院の非常勤職員として主に細菌検査、血液検査を担当しておりました。こちらの病院で職員として配属され病理検査担当ということで学生の時以来経験したことのなかった分野でしたので実際に仕事してみると想像していた以上に大変細かい仕事であることを日増しに感じており、かなりおどろきな私の性格でこの先勤まるのかと不安に感じることもよくあります。そんなわけで仕事の事を書いて暗くなりそ

うなので今回は自己紹介ということなので趣味の話にさせていただきます。私の趣味はガーデニングです。はじめは一年草といわれるパンジーやマリーゴールドのようなかわいらしい花を種から育てたりハーブや毎年勝手に生えてきてくれる宿根草も育てました。今ではバラ栽培にはまっています。

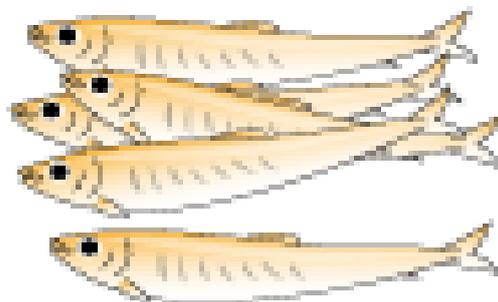


バラは剪定や消毒、肥料などが必要なので他の植物に比べて手間はかかりますが慣れてしまえばそんなに大変ではありません。育て始めてから十数年たちますが今では50種類程あります。なぜ同じバラばかり育てるのか不思議に思うかもしれませんが種類によって花の色、形、香りが違うのはもちろんですが葉や樹形も異なりますし性質も異なってきます。例えば強い日差しを好むものや逆に苦手なもの、寒さに強いものや弱いものなどがあります。この性質の違いはオールドローズといわれている古い種類のバラに顕著にあらわれています。これが面白くて集めだすとはまっています。最近では温暖化の影響でこのオールドローズが枯れてしまうという現象がヨーロッパの方でみられるそうです。私が育てているオールドローズの中でもマダム・アルディというバラが2本あるのですが去年位から2本とも夏になると葉と幹が黒く焼けてしまって枝先から枯れてくる現象がみられるようになりました。これからは温暖化に負けない種類のバラを見つけて育てようと思っています。今年の夏は節電対策としてグリーンカーテンがはやりましたが温暖化を加速させないためにもぜひ続けてほしいと感

じました。変な自己紹介となってしまいましたが今後ともどうぞよろしくお願い致します。



## 北浦の帆船



## わかさぎ

# 水戸医療センター



## 【施設紹介】

当院は平成 16 年 10 月に水戸市東原より茨城町桜の郷の地に病床数 500 床の新棟を建設し、移転を致しました。診療機能は総合診療施設で、特に癌、循環器疾患、救命救急に力を入れており、第三次救命救急医療に携わり、救命センターを有しています。平成 22 年 7 月からは水戸済生会総合病院と連携を持ち、ドクターヘリ拠点病院として週 3-4 日の運営を開始し、全県下、隣接県の救命救急医療の中心的役割を担っています。また、一日平均患者数は入院 420 人、外来 710 人で、DPC を施行しています。

当検査科は今年度技師 1 名増員して頂き技師 20 人、検査助手 2 人、病理事務補助員 1 人の 23 人体制で行っています。しかしながら二交替制を導入していますので、日勤帯の技師数は 16-17 名と人員不足になりますが、連携を保ちながら大量検体、大量患者の検査、外来採血業務に日々奮闘しています。

昨年は大型生化学免疫測定装置をはじめ、ハイエンド超音波診断装置、肺機能装置、病理染色装置、HbA1C、BC-ROBO 他多数の機器整備と検査システムの更新が叶い、検体検査の効率は飛躍的にアップしました。懸念していた生理検査は、質の向上と新規検査の導入に向け奔走した結果、乳腺超音波検査の新規導入、腹部超音波検査の増枠、

心臓超音波検査の質向上、脳神経外科術中 ABR モニタリング、治験など強化の実現ができました。

今後は、急性期病院の中で検査部門の役割を見据え、即答、即断できる検査科に進化していけるように努力して参ります。

文責 中島 哲

## 新人紹介

佐藤 成彦



4 月 1 日付けで、水戸医療センターにまいりました佐藤成彦（サトウ ナルヒコ）です。平成 22 年度の地区会では 4 月より事務局長を務めさせて頂きました。先日おこなわれた講演会・総会・懇親会では多くの方々にご参加頂き、ご協力に感謝申し上げます。

私のプロフィールは湘中央学園（神奈川県海老名市）を卒業し、横浜病院・箱根病院・国府台病院・立川病院・災害医療・甲府病院・横浜医療に勤務し、今回茨城地区にまいりました。生まれは神奈川県津久井郡（現相模原市と合併）で、中央高速道路の相模湖インターの近くといった方が分かりやすいと思います。生家は 48 年前に作られた津久井湖ダムの完成によりダムの底に水没してしまいました。

前施設では患者さんに糖尿病療養指導をおこなっていました。夜遅くの夕食・近所でも自動車を使うなどの生活態度はまさしく糖尿病予備軍で、患者さんを指導する資

格ナシと自覚した結果、クロスバイク（自転車）でのサイクリングが趣味となりました。ママチャリに抜かれないように千波湖周辺を走っています。

水戸医療センターでは今後は検査相談コーナーの役割が出来ればと思い患者さんに検査についての説明をしたいと思います。

水戸医療センターに来て半年が過ぎました。中島技師長には「検査の先に患者さんがいる。患者本位の検査科でなければならない。意識改革しなさい。」きびしい言葉を日々言われています。医療は患者さんの為にあるという基本的な認識のもと検査科スタッフと共に頑張りたいと思います。皆さんよろしくお願ひいたします。

### 矢野 政敏

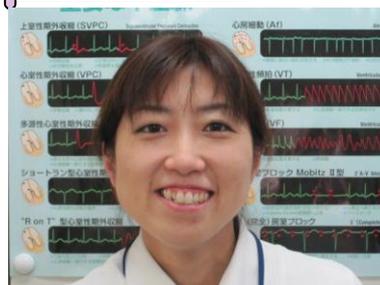


本年4月1日付けで、信州上田医療センターより水戸医療センターに参りました矢野 政敏(ヤノ マサトシ)です。ご存じの方も多いたと思いますが、今から十数年前賃金職員として旧国立水戸病院に4年間勤務していました。当時とは水戸の街も病院もすっかり様変わりし(さすがに新病院の立地場所には閉口しましたが・・・)、月日が経ったのだと改めて感じています。しかし先日の地区会総会で感じた事です、茨城地区会の参加者の多さや3施設の連帯感は以前と同様に強い絆で結ばれており全く変わっていませんでした。また、昔勤務していた施設や専門学会で共に学んだ方、趣味を通じて知り合った方にも地区会で再会出来、国立病院機構の繋がりも再認識出来ました。

現在は前施設と同様、一般・病理検査を担当しています。今回の異動で5施設目となり、やはり仕事の流れや方法などの違いから戸惑いを感じる事もありますが、良きスタッフに恵まれ、また、ここで新たに学んだことも多々あり、この経験を生かし自分の知識・技術を向上させていきたいと思っています。仕事以外では同僚とラーメン同好会を立ち上げ？不定期ですが以前はあまり出来なかった水戸の食文化を探求・堪能しております。皆様もオススメのB級グルメなどありましたら教えて頂ければと思います(特にニンニク料理大好きです！)。

水戸医療センターに来て半年が過ぎ、茨城地区会の皆様には今後ともお世話になる事が多々あると思いますが、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひします。

### 羽部 久美子



4月1日付で茨城東病院から異動となりました羽部 久美子(はべ くみこ)です。この度、倉持技師に引き続き茨城3施設制覇の快挙を成し遂げました！！これからも茨城地区会会員として貢献できるよう頑張ります。

私は純粋な茨城生まれ、茨城育ちです。多少訛りはありますが、患者さんには標準語でお話しています。自宅は、城里町と那珂市の境目位の緑豊かな高台にあります。病院までは通勤で込み合うこともあり約1時間かかりますが、子供とゆっくり話す良い時間でもあります。最近はウルトラマンと一緒に歌いながら保育園へ送っていくの

が日課です。

茨城東病院から引き続き生理検査業務を担当しています。施設が変わると内容や症例等も大きく変わり、はじめは戸惑うこともしばしばありました。そんな中、心エコーの検査を終え技師長から「自分本位の検査をするな!」「地域医療連携から紹介できた患者は、ここが最後の施設。ここで見逃したら患者がずっと苦しむことを忘れるな。」と叱責されました。自分では一生懸命でも、患者さんを考えずに検査しては無意味であることを実感し、いままでの自分の取り組む姿勢を反省した出来事でした。これからは、実力不足が解消できるよう日々研鑽し、将来「使えないおばちゃん」と言われることがないよう実力ある技師になるのが目標です。

最後になりましたが、素晴らしい環境で検査に携えるのも中島技師長をはじめ、検査科の皆様の暖かい支えのおかげと感じています。今後ともご指導の程よろしく願います。

### 渡邊 隼



平成23年4月1日付で水戸医療センターに採用になりました、渡邊 隼（わたなべ じゅん）です。今年3月に埼玉県所沢市にある西武学園医学技術専門学校を卒業しました。

出身は福島県の南相馬市、3月11日に発生した東日本大震災の被害を受けた地域のひとつでもあります。福島原子力発電所事故における放射線や津波による被害もあつ

た中で、幼いころからの夢であった臨床検査技師の国家資格を得て社会人としての第一歩を水戸医療センターで迎えられたことを大変うれしく思っています。現在は免疫・血清検査を担当させていただいており、自分自身の勉強不足を感じる一方、学校で習う事とはまた違う知識や考え方を知ることができ、毎日充実した日々を過ごしています。

高校まではサッカー部に所属しており、専門学生時代は、友人と体育館を借りてスポーツをすることを趣味としていました。最近の趣味は、通勤のために購入した車で水戸周辺をドライブすることです。見知らぬ場所を車で走ると新しい発見があり、田んぼ道を見ると出身である福島を思い出して、とてもいい気分転換になります。

最後になりましたが、中島技師長をはじめ検査科の皆様の温かい支えの中で毎日仕事に集中して取り組めることに感謝しております。知識・技術ともにまだまだ未熟ではありますが、免疫・血清検査はもちろん採血業務、緊急検査業務など少しでも多くのことができるよう頑張りますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 水戸の偕楽園



## 来年の干支は《辰》

会員の皆さん、来年も震災・不況に負けず、天を翔る龍の如く  
元気に頑張りましょう。



今年は、施設ごとの新人紹介ということで計10名の新人(?)を掲載しました。また、それぞれの施設の特徴や現況もご紹介しますので情報交換等の参考にして頂き、より一層会員相互の親睦が深められたらと思います。

先日、久しぶりに家内と実父母のお墓参りに出かけました。3月に起きた東日本大震災の爪痕が残っている中、定年を少しすぎた老夫婦でしょうか、墓石が倒れ傷つき、石台がずれているお墓に仏花を供え、手を合わせてご供養されておりました。震災から9カ月が過ぎ、マスコミ等では復旧・復興が徐々に進行しているような報道がされていますが、まだ、被災地末端ではこれが現実なのでしょうか。「心のケア」を含め、皆が心豊かに生活出来る本当の意味での復興が少しでも早く来ることをお祈りしたいと思います。



合掌 (広報担当：根本)